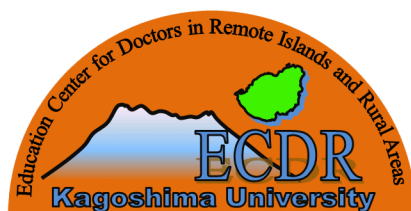


# 第2回地域推薦枠医学生特別離島実習 報告書





## 第2回地域推薦枠医学生特別離島実習 概要

### ◆対象◆

鹿児島大学医学部 地域推薦枠学生

### ◆実習目標◆

離島医療の現場を体験し、地域医療のロールモデルの1つとして、離島医療体制と現場における医師の役割を学習する。

- 1:離島医療現場における診療体制を見学する
- 2:離島医療現場におけるプライマリ・ケアを見学する
- 3:離島医療現場における保健・福祉活動を体験する
- 4:離島医療現場における全人的医療について考える
- 5:医師以外の職種の役割について考える

### ◆成果発表◆

8月22日(土) 奄美文化センターに集まりシンポジウム形式で発表し、お互いに情報交換をする。

(実習先で体験したことを紹介し、離島医療の魅力について発表する)

(各組の診療所での共通点・相違点について討論し、離島医療への理解を深める)

### ◆実習期間◆

平成21年8月17日(月)～23日(日)

### ◆指導教員◆

嶽崎 俊郎 (鹿児島大学大学院医歯学総合研究科離島へき地医療人育成センター センター長 兼 国際島嶼医療学講座教授)

大脇 哲洋 (鹿児島大学大学院医歯学総合研究科離島へき地医療人育成センター 特任教授)

根路銘 安仁 (鹿児島大学大学院医歯学総合研究科離島へき地医療人育成センター 特任准教授)

新村 英士 (鹿児島大学大学院医歯学総合研究科国際島嶼医療学講座 講師)





# 奄美大島コース

# 瀬戸内町へき地診療所



診療所外観



宇山 正 先生

準備中



橋口 正隆 先生

宇宿 真一郎 先生

郵便番号	894-1508
住所/電話/FAX	大島郡瀬戸内町古仁屋1055-1/電話 09977-2-3211/FAX 09977-2-3762
管理者(院長・所長)	宇山 正
メールアドレス	hekichi@amami-setouchi.org
診療科目	内科、外科
診療時間	8:30~11:00/13:30~16:00 土午後・日・祝・年末年始休診
病床数	
スタッフ	
設備	心電図、人工呼吸器、エコー、レントゲン、手術室(あるが現在倉庫状態)、CT、生化学分析装置、全自動血算器、呼吸機能検査装置、血ガス分析器、血管造影検査、Holter心電計
院長からのメッセージ	へき地の診療所であっても都会の総合病院であっても基本的な考えは同じで、「自分がしてもらいたいことを患者さんにも提供する」ということです。自分や自分の身内と思って検査、診断、治療、説明、紹介などするように心がけること。そうすることで医師として人として成長するのではと思いつつ、私自身日々努力しているところです。なかなか容易にはできませんが……。

## 実習施設の特徴・実習内容

当診療所は現在医師3人体制で、2人が診療所勤務、もう1人が巡回診療に当たっています。実習は巡回診療を中心に行います。与路島・請島へは海上タクシーで移動し公民館および診療所で診療を行います。加計呂麻巡回バス診療は、古仁屋から海上タクシーで加計呂麻に渡りそこからバスで巡回診療を行います。本島西部の診療は、加計呂麻からバスを前もってフェリーで古仁屋に移動させておき、巡回バス診療を行います。

請島・与路島診療では巡回バスを使用しませんので診療終了後、巡回診療バス見学をして頂きます。(バスが診療所になっているのはかなり珍しいです。)

町内に東京大学医科学研究所奄美病害動物研究施設があり前もって希望し施設の了解が得られる場合はハブなどの見学も可能です。





# 徳之島コース

# 医療法人南溟会 宮上病院



診療所外観



宮上 寛之 先生

郵便番号	891-7101
住所/電話/FAX	大島郡徳之島町7268/電話 0997-82-0002/FAX0997-82-0695
管理者(院長・所長)	宮上 寛之
メールアドレス	nanmeikai@po5.synapse.ne.jp
診療科目	内科・外科・消化器科・小児科・産婦人科
診療時間	平日 午前 9:00~12:00 午後 14:00~18:00 日曜日・祝祭日: 休診
病床数	41床
スタッフ	

## 施設の特徴・実習内容

医療法人南溟会 宮上病院は、明るくリラックスした雰囲気を受診できると高齢者のみなさまにも評判です。困った事があれば、ベテラン看護師になんなりとご相談くださいませ。私どもは、親切、丁寧はもちろんのこと、正確な診療を柱として、これらの充実に真剣に取り組む事が使命だと考えております。これからも地域の皆様一人一人の健康と、幸せを見守り続けてまいります。

### 【関連施設】

- 特別養護老人ホーム「南風園」
- ケアハウス「いこいの里」

## メンバー

(敬称略)

【担当: 離島へき地医療人育成センター 特任准教授 根路銘安仁】

- ・新村 尚子 (M4)
- ・中野 緩奈 (M4)
- ・西村 怜 (M1)
- ・松下 裕亮 (M1)

## 実習の流れ

8月17日(月)	8月18日(火)	8月19日(水)	8月20日(木)
18:00 鹿児島新港発	9:10 亀徳港着 10:00-12:30 徳之島保健所 ハブ咬傷関係の講義と ハブ見学、レクチャーと 雑談「くらしに寄り添う保 健と福祉」(上床所長) 体験談「徳之島で勤務 して感じること」(保健 師) 13:30 宮上病院集合 13:45 病棟回診 15:00 訪問診療 18:00 地域住民との交 流会 宮上病院内 泊	宮上病院 宮上病院内 泊	宮上病院 宮上病院内 泊
8月21日(金)	8月22日(土)	8月23日(日)	
観光(地域診断) 17:00 亀徳港発 20:25 名瀬港着 県立大島病院 「むつみ寮」泊	午前中 奄美北部観光 (あやまる岬、奄美パー ク、ハブセンター、昼食 みなとや鶏飯) 14:00-16:00報告会 奄美文化センター:各グ ループ20分、全体討論 30~60分 県立大島病院 「むつみ寮」泊	10:10 奄美空港発 11:00 鹿児島空港着 解散	





# 与論島コース

# パナウル診療所



診療所外観



古川 誠二 先生

郵便番号	891-9300
住所/電話/FAX	大島郡与論町大字那間2747-1/電話 0997-97-2073/FAX 0997-97-5164
管理者(院長・所長)	古川 誠二 (こかわ せいじ)
メールアドレス	simba@doctor.email.ne.jp
診療科目	内科・外科・小児科
診療時間	平日 午前 8:30~12:00 午後 16:30~18:00 ※月・木は16:00~18:00 土曜日 午前 9:00~12:00 午後 休診 日曜日: 休診
病床数	
スタッフ	
設備	心電図、内視鏡(胃カメラ・大腸ファイバー・気管支ファイバー)エコー(腹部・心臓兼用)、単純レントゲン、電子カルテ、全自動血算器、呼吸機能検査器、Holter心電計、動脈硬化測定器
院長からのメッセージ	1)人間とは、医師とは何者か?じっくりと自分自身に問いかけてほしい。 2)島嶼の医療システムを理解してほしい。3000年の歴史を持つ限られた島の生活空間の中で築き上げてきた生活様式、文化、価値観、常識など全般の理解と、そこに暮らす人間関係のあり方。 3)プライマリ・ケアとはなにか?その基礎から臨床まで。プライマリ・ヘルスケアの実践との連携を考えて、世界の発展途上国のことにも関心を持ってほしい。 4)在宅医療の現状とその問題点 地域社会、家族との関係においてどのように変化していくか。与論の現状とその変遷。 5)海と健康 代替療法、総合医療等を理解してほしい。 6)医療システムの中の開業医の立場とあり方について考えてほしい。

## 施設の特徴・実習内容

- 1) 木造平屋建築の外来と健康増進室があり、薬局は院内処方に対応。検査はSRL西日本に依頼。検尿、赤沈、CBCは院内で。レントゲン室、牽引、SSP等の簡単なリハビリ実施。
- 2) スタッフは医師1名、看護師3名、事務部4名。
- 3) プライマリ・ケア医として地域とともにいかに生きるか。実技と地域の人間としての生き方についても実習。実技では内科一般、外科の小手技、小児、皮膚科、眼科などの治療を幅広く行い、腹部エコー、胃カメラ大腸ファイバーなどの実習も行う。
- 4) 島嶼医療のポイントであるトリアージについていも考えてもらう。救急搬送すべきか、時間の余裕は?ターミナルケアの見取りなども機会があれば実習していただく。

## メンバー

(敬称略)

【担当: 離島へき地医療人育成センター 特任教授 大脇 哲洋】

- ・宇佐美 環 (M2)
- ・下田 祐郁 (M1)
- ・豊留 孝史郎 (M1)
- ・若松 美幸 (M1)

## 実習の流れ

8月17日(月)	8月18日(火)	8月19日(水)	8月20日(木)
18:00 鹿児島新港発	13:40 与論港着 15:00 与論町役場訪問 以後自由行動 18:00 歓迎会(BBQ) 与論活性化センター 泊	パナウル診療所 与論活性化センター 泊	パナウル診療所 与論活性化センター 泊
8月21日(金)	8月22日(土)	8月23日(日)	
地域診断実習 12:10 与論港発 20:25 名瀬港着 県立大島病院 「むつみ寮」泊	午前中 奄美北部観光 (あやまる岬、奄美パーク、ハブセンター、昼食 みなとや鶏飯) 14:00-16:00報告会 奄美文化センター:各グループ20分、全体討論 30~60分 県立大島病院 「むつみ寮」泊	10:10 奄美空港発 11:00 鹿児島空港着 解散	





# レポート



## 09年夏季医学生離島実習を通して

医学部医学科2年 宇佐美環

私は去年、1年生として屋久島で初めての離島実習を行いました。今年も1年生3人と一緒に与論島で実習をしました。与論港までは鹿児島新港からおよそ20時間もかかり、とても疲れてしまいましたが、今考えてみると、これも離島実習の上で離島がどうしても持つ不便さというのを実感でき、大変貴重な経験だったと思います。与論島に着いた日は、役場の皆さんが歓迎会を開いてくださり、与論町の南町長や役場の職員の方々といろいろな話をすることができました。産婦人科医不足の話や島での生活についてなど、実際に島の人の話を聞いて、島での生活に魅力を感じたとともに、その生活をよりよくするためには島の医療がもっと充実しなければならぬのだと改めて感じさせられました。

そして、次の日から私達4人はパナウル診療所の古川先生のところへ実習をさせていただきました。パナウル診療所は、木造平屋で診療所という感じはほとんどせず、とても温かい雰囲気がしました。薬局は院内処方、レントゲン室や健康増進室もあり、エコーなどのさまざまな設備もそろっていて、とても離島の診療所とは思えませんでした。また古川先生は診察の合間に、スピリチュアルケアや開業医の立場についてなどたくさんのお話をしてくださいました。その中でも私が一番印象に残っているのは、プライマリ・ケアについてです。プライマリ・ケア医として全人的医療が行えるのはもちろんのこと、場合によって専門医との連携をしっかりと、after careができる能力も必要なのだと知りました。その他にもプライマリ・ケアを通して、患者さんの人生が見られ、自分自身も成長できるという先生の言葉にとっても感銘を受けました。先生がおっしゃるには最近、地域医療やプライマリ・ケアのことをしっかり分かっていない医師が多く、先生自身も卒業後に勉強して大変だったそうですが、私は幸運にも地域枠の学生として、1・2年のうちからこのような実習に参加することができているので、そのそれぞれで学んだことを1つずつ自分のものにして、今後しっかり活かしていきたいと思っています。そして、もう1つ、先生が私達に教えてくださったのは「視野を広く持つ」ということです。これからの大学生活では専門的な勉強はもちろんですが、先生がおっしゃるように、視野を常に広く持ち、いろいろなことに興味を持っていきたいと思っています。今回の実習は去年より日数も長く、私自身も2年生になったということもあってか、実習を終えてみて、去年とは感じたことが全然違ったように思います。今後、学年が上がるごとにまた感じるものが全く変わってくると思うと、これからもこういった機会があれば積極的に参加したいです。

今回の実習がこれほど充実したものになったのは、多くの方々のおかげです。この場を借りてお礼を言いたいと思います。本当にありがとうございました。



## 離島実習感想

医学部医学科1年 重久彩乃

私は今まで離島医療について、本などで得た知識しか持っていませんでしたが、今回実際に実習に行ってみて、新しく学ぶことがたくさんありました。

1日目はまず、午前中に高齢者の方々の運動教室に参加させていただきました。最初は簡単な問診や脈拍測定をさせていただき、そのあと一緒に運動に参加しました。私達でさえも、少し大変だと感じるような運動をみなさんととても積極的に行っていて、高齢者の方々の元気に驚かされました。

午後は中高年の方々向けのタラソセラピーに参加させていただきました。砂浜でのウォーキングやエアロビクスではかなりの体力を消耗しましたが、そのあとの海はとても気持ちよかったです。参加者のみなさんもととても楽しそうに参加されていて、楽しく運動ができて健康も維持できるととても有効なプログラムだなあと感じました。

2日目と3日目は、瀬戸内町へき地診療所で見学をさせていただきました。

私は今まで、離島の診療所の先生は1人というイメージが強かったのですが、へき地診療所には3人の先生がいらっしゃって、2人が診療所勤務、1人が巡回診療をされていました。また、巡回診療では巡回バスを使用されており、このような診療形態があることを初めて知り、驚きました。私達は2日目も巡回バスでの診療を見学させていただいたのですが、先生が患者さん一人ひとりに丁寧に説明をされていたのがとても印象的でした。その対応の仕方も、患者さん一人ひとりによって違って、このような小さな心配りによって、患者さんとの信頼関係を築いているのだなと思いました。また、外科の先生が内科的処置を行っていたり、内科の先生が外科的処置を行っていたりして、やはり医師の少ない離島などには、自分の専門の科以外にも浅く広い知識を持った総合医が必要なのだと感じました。さらに、見学の途中で血圧測定をさせていただいたり聴診器を触らせていただいたりして、とても有意義な時間となりました。

4日目には、観光をさせていただき、水中観光船に乗ったりカヌーに乗ったりして、この実習に来なければすることができなかったこと、見るということができなかったことをたくさん体験することができました。

5日目には、すべてのグループが集まったの討論があって、他の診療所との違いなどを知ることができてよかったです。

今回の実習を通して、本当にたくさんのことを学ぶことができ、離島医療に対する理解や関心を深めることができました。また、南国の島々の自然の美しさや島民の方々の優しさに触れ、改めて離島の良さを感じました。この実習で学んだことを心に留めて、これからの学習に励んでいきたいと思っています。

最後に、今回の離島実習に参加させていただいたことを心から感謝します。本当にありがとうございました。





## 地域枠の夏の実習に参加して

医学部医学科1年 下田佑郁

私は今回の実習で与論島に行かせてもらいましたが、今回生まれて初めて島に行きました。利用した船は、大きくて、食堂に売店、トイレのほかに、お風呂やゲームコーナーまであり、驚きました。しかし、こんなに設備が充実している船であっても、20時間も乗っているのは、骨が折れました。鹿児島市と与論島が地理的にみてどれほど離れているのかということ、身をもって学ぶことができました。与論の海は話には聞いていましたが、白い砂浜に透きとおる海で、本当にきれいでした。特に海の色はきれいで、空との境界のあたりを眺めるのが好きでした。晩は星がすごかったです。

18日の夕食会には町役場の方々にバナウル診療所の古川先生、診療所に来ていた研修医の方が来てくださいました。役場の人たちの島を想う気持ちを生の声で聴けたのは、良い経験だったと思います。与論献奉を今回初めて知ることができました。与論に行くことになってから、先輩に名前だけ聞かされていたのですが、“けんぼう”がまさか“献奉”だとは思ってなかったもので、驚きました。とてもしゃれた名だと思いました。

診療所には、自転車を通ったのですが、予想以上に遠くて、坂があって、車もいて、苦勞しました。診療所は木造の温かみのある建物で、作りが体育館のようで、なんだか変わっていました。本がたくさんあって、待合室は、図書室のようでもありました。教会からの献本もありますが、ほとんどは先生が集められた本であるそうです。児童書から難しそうな本までいろいろと揃っていました。おもちゃも用意してありました。それだけで、ここには、幅広い年齢層の人たちが訪れるということが容易に想像できました。診察時間よりも早い時間に到着しましたが、すでに数人の患者さんが待っていました。待合室には、患者さんたちが新聞や本を読んだり、知り合いと話をしたりしていました。そこで先生の診察を見学したり、先生から先生が離島医療において大切だと考えている事柄について教わりました。院内薬局の見学をしたり、実際に患者さんの薬を袋に入れて、服用についての説明をしたりもさせてもらいました。研修医の先生と話したりもしました。様々なことができ、診療所の方々には、感謝しています。

今回の実習では、予想以上にいろいろなことを経験し、自分で気づけている以上のことが学べたのでは、と思います。今回の企画に携わってくださった人たちのおかげだと思います。ありがとうございました。



## 徳之島（宮上病院）実習を終えて

医学部医学科4年 新村尚子

今回、私は初めて徳之島という地を訪れました。闘牛で有名、ということしか知らなかった私にとって、徳之島の自然のすばらしさや住民の方々の優しさはとても心に残りました。

実習では宮上病院で実習をさせていただきました。先生方の外来診療を見学させていただいたり、病棟の回診見学をさせていただいたり、訪問看護や訪問診療に同行させていただきました。また、宮上病院と提携している特別養護老人ホーム「南風園」やケアハウスの「いこいの里」も見学させていただきました。

3日間の実習では本当に医学的知識のことはもちろんのこと、外来診療のときはどうやって患者さんと向き合って話を聴いてやっていくのか、ということや、訪問看護や訪問診療に携わる看護師さんや先生方がどのような思いでされているのか、ということもお聞きすることができてよかったです。また、患者さんと待合室でお話させていただいたり、訪問診療や訪問看護のときにも患者さんのお宅でお話を伺ったりと、直接患者さんとお話できて、医学をこれからまた学んでいく上で、その先には必ず患者さんがいるんだ、という大事なことを再確認することができました。また、徳之島の中でも地区によって少しずつ生活に特徴があり、そういう地域の特徴をしっかりと理解して受け入れた上で、医療を行っていく大事さも学びました。やはり何よりそこに住んでいる方々に密着した医療であることが、いい医療を提供する上でかせないことなのかなあと感じました。

この4年間で、いろいろと実習にいかせていただきましたが、一通り主なことを学んでから臨んだ今年の実習は、今までとは違った視点で外来見学をさせていただいたり、先生方からのお話を聞かせていただいたりすることが出来ました。本当にためになった実習でした。特に外来診療の見学では、「いつもと変わらない」という患者さんのお話の中で、ちょっとしたことで変化はないか、危険な兆候はないか、ということ念頭に置きながら、うまい具合に先生方が質問をしながら診療されていて、学ぶことが多かったです。教科書に書かれている通りにすべての症状が出ている、ということなら診断はつきやすいですが、実際の臨床の現場ではそういうことはめったにない、ということもわかりました。そういった中で、いかにうまく診断を下して治療していくか、また高齢者の患者さんも多いので、合併症を持っている患者さんに対していかにうまく治療を組み立てていくか、ということの大事さを感じました。また、宮上病院で働かれている看護師さんの方々の明るさ、優しさも印象的でした。ちょっとしたことでさりげなく心配りがなされていて、感心させられることばかりでした。

今回の徳之島実習では、本当に多くのことを学ばせていただいて充実した3日間となりました。

宮上病院の職員の方々をはじめ、実習にあたり色々ご指導して下さった先生方、本当にありがとうございました。



### 離島実習に参加して

医学部医学科1年 辻 紘明

離島といわれても今まで一度も行ったことはなく、テレビや新聞などを通して得た情報しか持っていませんでした。離島のイメージとして、市内とは違い店の数も種類も少なく、市内の便利な生活に慣れている自分にとっては不便な場所、島の高齢者の占める割合が非常に高いこと、きれいな海に囲まれ自然いっぱいの環境、医療面に関しては、高度な医療技術がないこと、医師不足などさまざまなイメージを持っていました。今回実際に離島に行き自分の目を通して離島を知る機会を与えられたことはとても自分にとってプラスになりました。実際行ってみからの感想として、まず離島という環境については、鹿児島島の港から船で奄美大島まで12時間もかかりました。ほかのグループの徳之島や与論島はもっと時間がかかり、改めて鹿児島島の広さを実感しました。帰りは飛行機を利用して1時間で着き、船で行ったからこそわかったことでした。

島の様子はやはり行く前から予想していた通り、きれいな海や山など多くの自然に囲まれている良い面と、鹿児島市内に比べてとても田舎で島に着いてからの正直な感想としてこんな場所に1週間も、ましてや将来生活できるのかと不安でした。しかし、1週間の生活を实际にしてみても、市内のにぎやかな生活にはない島の、落ち着いた、静かな雰囲気を味わうことができ離島の良さを感じることができました。次に離島医療について、わたしが行った診療所には外科の医師が2人と内科の医師が1人でした。2人が外来担当で1人が診療バス担当でした。今回の実習は私たちの班は診療バスに2日間同行させていただきました。自分の知っている患者さんが病院に来て診察を受ける医療と違って、まさか白衣を着て船に乗って隣の島でバスに乗って巡回診療を行うとは思ってもみませんでした。診療バスの中は病院の診察室そのものであり驚きました。まだ大学に入って半年しか経っていなくなにもわからない状態でしたが先生の診察をすぐそばで見させていただきました。実際、知識がないため先生がどういう意図を持って診察しているかなどまったくわかりませんでした。先生の患者さんに対する言葉づかい、態度、表情、そして、患者さんの様子などに目を向けていました。来る患者さんのほとんどが70歳以上の高齢者ばかりで、とくに大きな病気をもった患者さんはいなく、高血圧や足腰が悪いなどの年齢に伴う身体の不調を毎回の診療バスが来るたびにチェックする感じでした。しかし、そんな中でも親指に釣り針が貫通した患者さんもいて、診療バスの中で麻酔をしてメスで切り取り出す治療なども間近で見る体験もしました。診察を見るだけではなく、交代で待合室や外で待っている患者さんと話をし、高齢にも関わらずみなさんとても元気で自分の健康に対する意識もとても高く感心する場面が何度もありました。

私はまだ1年生であり医師になるのはあと5年後と先の話ではあるが自分たち医学生に対する期待の大きさというものを改めて実感しました。今回の1週間の実習を終えて、医師に近い4年生の先輩方の視点と違った、まだ知識のないいまの状態でのこのような体験をさせていただいたことは自分の理想の医師像に影響を与えてくれました。まだ知識がないからこそ、医療を専門的視点からみるより、人と人に関わるものであるという視点でみるほうが強く、今後の大学生活の中で知識だけではなく、人間性を磨くことの大事さを改めて感じました。今回のこの実習で学び、感じたことを今後の大学生活で活かしていきたいと思います。



### 夏季離島医療実習の感想

医学部医学科1年 豊留 孝史郎

僕は今回の夏季離島実習で、与論島に行かせていただきました。与論島の率直な感想としては、海と砂浜がとてもきれいだったり、自転車で一周できるほど与論島は小さいのだなと感じました。

フェリーで与論島につき、地元の住民の方々との交流会がありました。そこで僕はいろいろな人に「将来は与論島の産婦人科医として働いてほしい」であったり「与論で働いてほしい」という声をたくさん聞きました。まだ学生で1年の僕にもこんなに必要としてくれる人がいてくれて本当にうれしく思うと同時に、とても楽しそうにいろいろな冗談を言ったりしてくれる住民の方々からの温かい歓迎を感じました。

2日目からは、パナウル診療所に行き古川先生や研修医の平尾先生のもとでさまざまな診療の様子などを見させていただきました。この中で特に印象に残ったことは、古川先生はさまざまな患者さんのさまざまな病気に対応していることで、風邪の診療をした後には指の斑点をみたり、口の中を見たり、と離島ではないところでは完全に違う科もすべてこなしていました。やはりそれが離島医療に必要とされるプライマリー・ケアなのだと思いました。また、午後からは往診に連れて行ってもらいました。往診にいき、先生に会えたおじいちゃんやおばあちゃんはとてもうれしそうにニコニコ笑っていました。本当に先生は多くの人に信頼されているのだと思いました。

診療の最中でも患者さんが来るのが途切れたら、少しの時間を使って古川先生は僕たちにさまざまな話をしてくださいました。その時に先生が質問はないかな、と聞かれたので、僕は離島で医療をしていて楽しいことはあるのですか、と聞きました。すると先生は、離島にいると一見、最先端の医療を学べないで医者としての腕が落ちると思うかもしれないが、日々の仕事の中でここでしか学べないことがあるし、生活や地域を理解することで患者さんの人生が見えたりして、島という地域の視点から世界がみえるので、十分に世界をねらうことができる。日々学ぶことも多くて本当に楽しい、とおっしゃっていました。そのことを聞いて、将来離島医療をするものとしてこの言葉を忘れないように努めよう、と思いました。



今回の夏季離島実習を通して、僕は古川先生や平尾先生や地域の住民の方々のおかげで、少し考え方において成長することができたのではないかと思います。このような貴重な体験をさせていただいて、本当にありがとうございました。



### 徳之島離島実習を終えて

医学部医学科1年 中野緩奈

入学して4度目の夏季休暇、大学の先生方や県職員の方のお力により私たち学生13名は離島実習として奄美を訪れることができました。私の実習地は徳之島でした。徳之島を訪れたのは今回が初めてで、3つの市町村があることや島民の数を聞き、種子島と少し似ているかもと勝手な親近感を抱き、実習に臨みました。

実習でまず感じたことは、やはり自分の医療現場を見る視点が1年生の時と比べて大きく変わっているということで、4年間勉強してきたことは確実に自分の医療の道となっていることを改めて実感しました。もちろん同時に自分の勉強がまだまだであることも痛感しました。

そして3日間の病院実習を通して一番印象に残っていることはたくさんのお患者さんたち、そしてその家族の方々への「ありがとうございます」という言葉でした。特に訪問診療や訪問看護の帰り際に感じました。何気なく出るその言葉や笑顔にはなんともいえない温かさがありました。もちろん、現実をみつめることや医療費や介護のこと、家族のことなどさまざまな問題がそれぞれの患者さんたちにあり、全員がうまくいっているわけではありません。いろいろな部分で折り合いをつけざるを得ない状況を見ることもありましたが、そういった状況でも、するりと素直な言葉ができる人間関係の温かい部分を感じました。

離島を含む地域医療では、患者さんたちとは長い時間関わっていくこととなります。徳之島実習の中で、先生方が「患者さんの多くは高齢者で、特に変わりがなく薬をもらいにくるだけの人も多い。特に変わりが無いことは悪いことではないけれど、きちんといつとも違ったところがないかしっかりと患者さんを診て、絶対に緊急の疾患を見逃さないようにすることが大事」とおっしゃっていました。一人の患者さんの「いつも」や「普段」を知り、変化に気づくということ、検査の正常値を学んで異常を指摘できるということよりずっと時間や気持ちを必要とすることです。一朝一夕でできることではないからこそ、得難い信頼関係が築かれ、患者さんたち個人個人に合った医療を実現につながるのではないかと思います。自分が地域で働き始めたときにはきっとたくさんの方に目が向いて四苦八苦しているのですが、焦らず地道に、当たり前のことですが自分に関わる人々全員に誠実に、より良い関係と共により良い医療を提供できるようにしていこうと思いました。

今回の実習では、報告会の場でも述べましたが他学年の学生と一緒に実習に参加してとても新鮮な実習となりました。そして、報告会という形で実習地三

様の内容が聞けてよかったですと思いました。学生間で実習報告を行う事が初めてでしたが、特に巡回船での診療の話はとても興味深く、次の実習の機会があれば是非行ってみたいと思います。奄美地区でもそれぞれ特徴があり、鹿児島県は本当にさまざまな医療の形があるのだなと改めて勉強になりました。学生生活も折り返し地点を過ぎ、将来についていろいろなことを考えるようになりましたが、今回の実習も自分の中の地域医療や将来への考えを形づくるよい実習となりました。

先生方、県職員の方、奄美・徳之島のみなさんにたくさん感謝をお伝えしたいです。この気持ちを忘れず、将来鹿児島県の医療を支えていけるように今後も勉学に励んでいこうと思います。



### 離島医療実習の感想

医学部医学科1年 西村怜

今回は自分にとっては初めての離島実習でした。私は離島出身ですが、医療機関で実習するのは初めてで、新鮮な気持ちで取り組むことができました。

まず、実習内容を振り返ってみます。初日は個人的には今まで何回も利用してきた船での移動で懐かしいなと思いながらの船旅で翌日の朝、徳之島に着き、保健所へ向かい所長さんや保健師さんから、離島ではただ病気を治すだけでなく患者さんの生活環境から病気や症状の原因を見つけ、改善するよう促すといったことも必要であるなどの話を聞くことができました。保健所を出た後は早速宮上病院に向かい、看護師さんの仕事の見学をしたり南風園に行かせていただいたりしました。南風園では人工的に栄養を取り入れている患者さんが多く、また寝たきりの生活を続けるなかでひどく床ずれしてしまった患者さんもいらっしゃいました。二日目は朝から看護師さんについて回り、外来見学をし、最後に訪問看護と一緒に行かせていただきました。外来見学をしているときに胃ろう造設手術の見学や、緊急外来の患者さんの診療の見学などをすることができました。三日目は外来見学をして認知症患者やアルツハイマー病患者、認知症に効く薬などに関する勉強会に参加しました。

外来見学をしてい

るうちに改めて離島医療の大変さを感じました。昼食時間くらいしか休憩時間はなく、朝から夕方まで外来や回診をして当直の場合はそのまま夜も病院に残り、翌日も夕方まで仕事をするため、体力もつけないといけないと思いました。先生方も大変だとは言っていましたが、それでも手を抜くことなく患者さん一人一人丁寧に診療する姿に感銘を受けました。自分はまだ専門の知識がほとんどないため、外来見学中は先生方がどんな考えをもって診療にあたってどのようにして診断をするのか全く理解することはできませんでしたが、外来の雰囲気を感じることができてよかったです。

また、実習では医師だけではなく看護師の仕事の様子も見る事ができました。体温を測ったり血圧を測ったり、清拭をしたりなど看護師さんたちの仕事も忙しそうでした。また話を聞くなかで、医師と

看護師のつながりは大事だということも教わりました。

一週間の実習でたくさんの人と出会い、お話を伺うことができ、毎日貴重な体験をすることができました。この刺激をモチベーションにしてこれからの勉強も頑張っていきたいです。



夏季離島実習

医学部医学科1年 松下裕亮

八月十七日～二十三日にかけての夏季離島実習に参加した。私は徳之島の宮上病院にて十八日から二十日の三日間実習を行った。

一日午前中は徳之島保健所にてハブについて学んだ。大島本島と徳之島にしか生息しないこと、島民人口より多く生息していること、住宅地でも被害が出ていることなど、その恐ろしさを思い知った。午後からは宮上病院において入院患者さんの回診を見学した後、病院と提携している介護老人ホームを病院の医師が診察されるのに同行し、見学した。老人介護施設において誤飲性肺炎が多く発生すること、床擦れは骨が見えるまで重症化すること等、同行させていただいた先生から伺った。

二日目午前中は入院患者さん達の回診見学を行った。雑巾を用いての清掃作業や排泄物の処理の見学、足を骨折した患者さんのリハビリの見学などをした。そして、胃ろう手術を見学した。手術の見学は初めての経験で、白衣のまま行い、消毒が厳重でなかった点や短時間で終了したことなど、自分のイメージとは異なっていた。午後は外来診療の見学の後、訪問看護に同行させていただいた。一日目の老人ホームに入っていられる、症状の比較的軽い患者さんの個室や、自宅で訪問看護を受けられている患者さんのお宅を訪問した。脳卒中を複数回経験されながら老人ホーム内でパソコンを用いて仕事を続けられている方や、認知症の進んでいられる方など、同じケアを受けられている患者さんでも症状に差があることが印象に残った。自宅で訪問看護を受けられている方は島内で100名をこえるものの、一日に訪問できるのは5～6人であるという問題があるそうだ。三日目は外来診療の見学をした。一日目の老人ホーム訪問診療のときの先生に診療を見学させていただいた。患者さんのお話を(病気のとは関係ない内容でも)伺うこと、肩こりなど、患者さんの健康維持のために症状によっては漢方薬を処方すること等、僻地で活躍されている先生のお話を実際の診療をまじえて伺うことができ、僻地医療が現場でどのように行われているかを見ることができたように思える。また、実習の後では薬品会社さんが主催されていた勉強会にも参加させていただいた。

以上の三日間の医療に関する実習の他にも、徳之島をひとまわりしたり、奄美大島の名所を回ったりした。これまで県内の離島に行った経験がほぼ無い私にとっては、離島の雰囲気や生活を感じるこの出来る貴重な経験であった。

同じ徳之島のグループであった四年の先輩方のように、医学的な視点から今回の実習について理解することは一年の私には難しかった。だが、何も分かっ

ていない今、離島医療を見た経験、そしてそこから感じたことをこれから医学を学ぶ上で活かしていきたいと思う。



奄美大島での実習

医学部医学科2年 八代悠希

お盆明けの8月17日からの1週間、離島医療実習に参加した。今年度は参加者11人と多かったため、3島に分かれての実習となった。私は2日間奄美大島のへき地診療所でお世話になり、巡回診療を見学させていただいた。

とても心に残ったのは、患者さんの感謝の言葉だった。「ここまで来てくださるから本当に助かるのよ」と、1人の患者さんが私におっしゃった。それが本心だろうと、先生も当たり前のように受け止めておられた。自分の住む地域ですぐに病院に行けないことがどれほど不安か、想像の範囲でしかわからない。産まれた時からその土地で過ごしていたら大変さに気付かない方もひょっとしたらいらっしゃるのかもしれない。しかし私が見学したたった2日間の間にも、私と患者さんの感覚の違いはいろいろなところに現れていた。

指に釣り針を刺した方がいらっしゃった。かなり深く刺さっていて、メスで切ってもなかなか取れないほどの深さだったのに、その方はペンチで抜こうとしたそうだ。もしその日に巡回診療がなかったら無理にでも抜いたのだろう。それを聞いただけで背筋がぞっとした。

離島や僻地で働くには、広い知識が必要なのだと実感した。内科の先生でも簡単な外科の手術ができなければならない。様々な状態の患者さんそれぞれが急を要する病気がどうかを見極めるために判断力もなければならない。そういったことはとても難しいことだと思った。やっつけている先生方はすごいと、今はただそう思っているだけですんでいるが、何年か後には自分がそれをできなければいけないということが不安であり、楽しみでもある。その時しっかりとやっつけていけるような知識を学生のうちに習得し、これから技術も身につけていきたい。

巡回診療が終わり、5時には診療所に帰り着いた。それほど長時間同じ場所にいるわけでもないし、重労働をするわけでもない。しかし、船に揺られてバスに乗り続けていた1日の終わりには、ぐったりするほどの疲れが残った。先生方は巡回を終えてから手術をする日もあるし、その後当直ということもある。その体力にとっても驚いていたのだが、ほかの離島僻地に比べたらかなり楽な方だよ、と先生に言われた。まだまだ知識も体力も足りないが、大学に入学してからこれほど充実した1週間は初めてだった。言い表せないほどの良い経験ができた。知識量はもちろんだが、卒業するまでに精神的にも成長できるような生活を送りたい。





## 離島実習の感想

医学部医学科2年 若松美幸

「楽しかった!!!」というのが今回の実習の一番の感想です。わたしは与論島へ行ったのですが、診療所での実習はもちろん、地域の方々と交流したり百合ヶ浜へ自転車で رفتったりと、とても充実した時間を過ごすことが出来ました。

診療所では診察やエコーの見学をすることも出来ましたが、1年生でまだ専門的な知識が全然無かったため、意味がほとんど分からなかったのは残念でしたが、エコーを実際に見るのは初めてだったし、1年生のうちからこのような機会はなかなかないと思うので大変貴重な経験ができたと思います。また、診療所の受付や院内薬局の手伝いをさせていただいたり、先生と一緒に往診に行かせていただいたりして診療所での色々な仕事を知ることができ、診療所の様子を自分の目で見る事ができたのはとてもいい経験だったと思います。

診察をしているとき、古川先生が患者さんとお話をしている様子を見ると、患者さんのご家族やお仕事の話、世間話などをしていて先生と患者さんが打ち解けていて距離がとても近いなあということが印象に残りました。患者さんのお話を聞くと、先生をとても信頼していて、地域の方々との繋がりも強さも感じました。

地域の方々との交流では役場の職員の方が隣に座って、いま与論島ではどんな医師を求めているのか真剣にお話して下さいました。正直なところ、まだ自分の将来についての明確なイメージは出来ていませんが、実際に地域の方の生の声を聞くことが出来たのは、これから学んでいくうえでのヒントになり、自分にとって大きなプラスになったと思います。

朝から自転車を必死にこいで診療所まで行ったことと、猛暑のなか自転車をこいで島を一周して、百合ヶ浜へ行ったことはこの夏の最高の思い出になりました。与論の海の美しさは思っていた以上でも感動しました。

奄美大島での報告会では他の島で実習をした班の発表を聞くことができ、それぞれの島に違いがあり、それぞれの地域で特徴があることを知ることができたので良い時間になったと思います。

また、今回の実習を通して同学年の6人と今までよりも交流を深めることができたし、ほとんど接したことのない先輩方や先生方とも交流することができ、色々なお話を聞くこともできたので、とても良い機会になりました。



## 鹿児島大学地域推薦枠医学生特別離島実習を実施して



離島へき地医療人育成センター  
センター長 嶽崎 俊郎

鹿児島大学地域推薦枠医学生特別実習は、卒後、鹿児島県の離島へき地を含む地域医療に貢献することを義務づけられている学生に対し、その動機づけをより明確にして、継続させることを大きな目的としています。この目的を達成するために、離島へき地において行う実習は、地域を知り、離島へき地医療への関心を高めるために、さらに、学生同士の学年を超えた交流の場の提供は、動機づけの継続に有用です。また、実習を通して、より具体的な将来像を描くことは、将来への不安を軽減させるためにも役立ちます。

離島へき地医療人育成センターでは、平成20年度から同特別実習を開始しました。鹿児島県の支援を得て、より充実した内容で実施することができた平成21年度の特別実習では、与論島、徳之島、奄美大島・加計呂麻島の3地域の班に分かれ、それぞれの地域で実習を行った後に、奄美市に集合し、発表会と懇親会を行いました。特に、今回の実習では医学的実習だけでなく、「地域を知る」実習と「行政との関連」実習を加え、より深く地域医療を理解するプログラムにできたことは、大いに評価できる点でした。そのためには、地域と行政の協力が不可欠ですが、今回の実習では十分な協力を頂くことができました。「地域で育てる」という視点と取り組みは、学ぶ側だけでなく、将来、医師を受け入れる地域側にとっても重要であり、有用であると考えられます。今後の実習においても、是非、積極的に取り入れたいと考えています。

実習後に行った報告会では、最上学年の学生が司会進行を行い、①与論島班、②徳之島班、③奄美大島・加計呂麻島班に分かれ、実習の報告と討論を行いました。討論では、他班への質問に加え、各々の島の医療の特徴・相違点、自分の将来像、実習のありかたについて、意見が交わされました。与論島班では、プライマリーケアや全人的医療、スピリチュアルケア、狭い地域での地域医療について、徳之島班では、病気の予防や、病院がとても忙しく、しかも住民の相談に一生懸命対応している姿、訪問看護、ケアハウスや特別養護老人ホームなどについて、奄美大島・加計呂麻島班では、高齢者や手作りのタラソ健康作り教室での住民との交流、バスによる巡回診療や自治医大卒の先生からの体験談などについて、幅広く学んだことが報告され、本実習の趣旨が良く、理解されていることが解りました。また、討論において、自分の将来像について、「病気ではなく、人を診る医師になりたい」、「地域に密着した医師になりたい」、「住民の生活も考えられる医師になりたい」、「仕事の先に患者がいることを自覚した」といった地域を意識した意見が数多く出たことは、本実習の成果でした。

本年度の実習は、企画、実施体制、学生の理解のいずれも十分な評価が得られるものでした。今回は、13名の学生に対し、3地域で主に3名の教員が対応できたことも、十分な成果が上げられた理由の1つでした。今後の課題として、地域枠学生の数が増えた場合の新たなプログラム内容と実施体制の構築が重要な点となってきます。「地域で育てる」という視点のもと、今後とも、医療機関だけでなく、行政と地域の積極的なご協力を是非、お願いと考えています。最後に、今回の実習にご協力頂きました、地元医療機関、行政、住民の皆様方、および鹿児島県に深謝いたします。

## 2009年夏季 第2回 地域推薦枠医学生特別離島実習を企画して



離島へき地医療人育成センター  
特任教授 大脇 哲洋

今回の実習が、地域枠推薦医学生全員での特別離島実習は最後になると思われます。4年前から1学年に2名募集したこの医学生は、昨年までで6名になりました。平成21年は募集定員が増え、ここに7名が加わり13名となったわけです。10月からは学士入学の推薦枠医学生の3名が加わり、更に来年は学士入学を含めずに17名の入学となるため、来年の夏には総人数が33名となることとなります。とても一度には実習できない人数になってしまいます。自治医科大学の卒業生が各学年2名であり、その上下の繋がりは強固なものがあり、当初はこれとほとんど同じ状況と考えており、上下の学年同士の関係を強化、維持する意味で全員での実習を目指していましたが、今後はそうはいかないようです。マネージメントする立場から言えば、わいわいと楽しくできたのはわずか2年足らずであり、今後は各学年バラバラに計画しなければならず、当初の目的の一つは断念せざるを得ないということになります。

これまでは実習先として、医学部の6年生が既に訪問先としている場所を選択したのですが、今回は奄美地区に限定したため、新たに徳之島の宮上病院を加えました。3年生が都合により参加できなかったのは非常に残念でしたが、与論島には栄鶴医学部長も御参加いただき、与論町長との懇親会も非常に盛り上がりました。最終日の実習の総括においても、栄鶴先生の参加により、学生の地域医療に対する意識は更に高まったようです。

また今回からは鹿児島県の予算を実習に使わせていただくことができ、地域推薦枠の学生たちは、伊藤鹿児島県知事との昼食会とも合わせて、県民の彼らへの期待を改めて実感したことと思います。地域医療が大切なことは、みんなが知るところであり、学生自身もなんとなくわかっているでしょうが、若いうちから現実の体験として経験することに大きな意義があると思います。こうした場を提供するには、十分な準備と、地域の方々との協力と、地域の先生方の協力が必要です。地域推薦枠医学生に対するこうした実習は始めたばかりであり、人数が増える中で、どのように意義深く、効率よくできるのか、試行錯誤の続くことと思います。学生自身も決して受け身ではなく、自分たちで考えるようなものに将来はしていきたいと考えています。

医師の仕事自体が精神論的部分に支えられている現状の基、しっかりとした契約の上に医療の内容が確立できていないことが、不安定な収入や無理な仕事量などに繋がっていると思います。日本の医学教育がまだまだ遅れているのも、それらを今日まで曖昧にしたまま医療分野が維持されている結果であり、原因のような気がします。少しずつ変革していかなければ、この医学生たちの将来は決して明るくならないでしょう。私どものセンターとしても、離島医療実習を実施しながら、医療をとりまく全体の改革もともに進めていかなければなりません。

最後に、ご協力いただいた診療所・病院の先生方、看護師さん、地域の方々、事務の方々、鹿児島県庁の関係者の方々、そして鹿児島大学の関係者の皆さんに心からの感謝を申し上げます。



## 第2回地域推薦枠医学生特別離島実習を終えて



離島へき地医療人育成センター  
特任准教授 根路銘 安仁

本年第2回目の地域枠学生特別離島実習を行いました。これまでに鹿児島大学医学部6年生の実習でお世話になっている瀬戸内町へき地診療所、与論パナウル診療所、県立大島病院に加え、徳之島の宮上病院、徳之島保健所にも受け入れをしていただきました。今回の実習が順調にいったのは、ご協力いただいた先生方、看護師さん、事務スタッフ、役場や地域の方々、鹿児島県、および鹿児島大学の関係者の皆様のお陰であり、感謝を申し上げます。

前回からの変更点が多数ありました。第1に実習内容の変更です。前回の「実習に聞いた話は医師側からみたものが多かった」、「程が短く、ばたばたして雰囲気は味わえなかった」、「1名の診療所、複数名の診療所、離島の病院など自分たちが働く可能性があるところの現状を実習したい」という意見を取り入れ、「地元住民との交流の時間を作る」、「時間的な余裕を持ち1週間」、「多くの医療機関を計画に入れる」の3点を主な改良点としています。

第2の変更点は、昨年鹿児島県医療制度改革推進室中俣室長に講演をお願いした際に必要性を認めていただき、今回から鹿児島県より実習を予算化してもらうことができました。そのため、奄美諸島で複数の地域に分散し1週間という余裕のある実習を行いその後全員で報告会を開き情報の交換が可能となり大変ありがたく思っています。

第3の変更点は、現地で活躍されている先生方をお願いして、町役場や地元の住民の方々との交流の時間も作っていただきました。与論で榮鶴医学部長も御参加いただき、地域枠学生にも地域を身近に感じる事ができただろうと思います。

今回の実習報告会で地域枠学生の意見を聞き、成長していることを感じる事ができました。実習中も上級生が下級生を導いたり、発表会でも上級生が上手に進行して学年による興味の違い、受け止め方の違いなどを明らかにしてくれました。上下の学年同士の関係を強化することも目的の一つでありましたが、実習も学年に応じた計画を立てる必要性もあり、学年ごとの実習計画を立てることで多くのことが得られる可能性も教えてもらいました。昨年までは、地域枠学生は各学年2名でしたが、本年から1学年10名（学士編入3名を含む）、来年からは1学年20名（学士編入3名を含む）と、当初想定していた以上に学生数が増えていきます。そのため、全学年で一度に実習を行うことは大変難しい状況になってしまいますが、これをよい機会として第1回、第2回で得られた経験をもとに、来年度からは各学年に応じた実習計画を立てたいと考えています。また、離島実習だけではなく、彼らのロールモデルとなりえるような医師の講演会の開催、学生が主体的に行動する学習会などで各学年の関係の強化を図りたいと考えています。これからも地域枠学生の皆さんと鹿児島県、鹿児島大学、鹿児島の地域医療で活躍する先生方と試行錯誤しながら、地域枠学生が将来鹿児島県の地域医療を担う人材として活躍できる環境づくりを行っていきたいと思います。関係する皆様のご支援、ご協力を今後ともよろしくお願いいたします。

## 2009年夏休み地域枠離島医療実習



国際島嶼医療学講座

新村 英士

2008年夏の離島実習では地域枠の学生6人全員で屋久島での実習を行ったが、本年4月からは新入生が一気に7人増えて合計13人になった。このため昨年のように1カ所では同時に実習を行うことが困難になり、奄美大島、沖永良部島、与論島の3カ所に分かれて実習を行った。実習の際のグループ分けに関してもなるだけ各グループとも上級生から下級生までが入って、学生同士に学年を越えた交流が出来るように配慮した。

私自身は奄美大島の学生達を引率し瀬戸内町へ行った。朝5時に船が名瀬港に着きバスに乗り換えて未だ日も空けやらぬうちに瀬戸内町に向かった。瀬戸内町では町が行っている介護予防の教室に参加して地元の方々とふれあったり、古仁屋の対岸の加計呂麻島に渡って海岸で行われている健康増進のためのタラソテラピーを体験したりすることが出来た。また、瀬戸内町へき地診療所での診療を見学したりやバスを使った巡回診療に同行したりした。

一週間の実習を終えた週末には沖永良部島、与論島で実習をしていた学生達とともに奄美市に一堂に集まり、それぞれが経験してきたことを発表して体験を共有するとともに地域が抱える様々な問題点などについての討論も行われた。高学年の学生達からは以前の実習と違って医学的知識を身につけてから現場を見ると見え方が変わってきたとの感想も聞かれたが、新入生からは始めて見る実際の地域医療の現場に対する戸惑いの声も聞かれた。ディスカッションが盛り上がった後には大浜海岸に沈む夕日を眺めながらの懇親会で学年を越えた人的ネットワークの形成も存分に計られた実習となった。

昨年までとスタイルを変えて行われた実習であったが、学生達にとっては貴重な経験が出来た実習となったようである。学年による知識や経験の差から物足りなく感じたり、消化不良を起こしたりすることもあったようだが、将来ともに地域の医療を担っていく学生達が学年の壁を越えて体験を共有できたことは非常に意義のあることと思う。

来年度は更に多くの地域枠の学生が入学してくることが予想される。人数が増えた場合に昨年や今年のようなスタイルでの実習が可能かどうか、今後の検討課題である。





**【編集・発行】** 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 離島へき地医療人育成センター

**【住所】** 〒890-8544 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1

**【TEL/FAX】** TEL(099)-275-6898 FAX(099)-275-6899

**【URL】** <http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/ecdr/>

**【MAIL】** rural@m2.kufm.kagoshima-u.ac.jp



*Go to the future★*